

江戸川大学 学報

edodai.jp

2025年6月

Vol.24 No.56



●主要日程

●主要行事

●人事

●諸報

学内行事 教育・研究活動

本学教員の著書

社会・地域との連携・交流活動

紀要等の発行

2024年度優秀論文発表会

●栄典・表彰

●施設・設備

●今年度の体制等

主要日程

2025年度 江戸川大学 主要日程

4月

3 (木)
入学式
4 (金)～11 (金)
ガイダンス
14 (月)
前期通常授業開始
16 (水)～21 (月)
教科書販売日
16 (水)
3 年生
就職ガイダンス 1
21 (月)～25 (金)
履修登録・確認
23 (水)
3 年生
就職ガイダンス 2
29 (火・祝)
(昭和の日)
30 (水)
江戸川ウォーク

5月

3 (土・祝)
(憲法記念日)
4 (日・祝)
(みどりの日)
5 (月・祝)
(こどもの日)
6 (火)
(こどもの日振替休日)
祝日授業実施
7 (水)
3 年生
就職ガイダンス 3
11 (日)
オープンキャンパス
12 (月)～13 (火)
教科書販売日
21 (水)
3 年生
就職ガイダンス 4

6月

2 (月)～6 (金)
履修取消期間
8 (日)
オープンキャンパス
11 (水)
3 年生
就職ガイダンス 5

7月

12 (土)
オープンキャンパス
21 (月・祝)
(海の日)
祝日授業実施
23 (水)
3 年生
就職ガイダンス 6
前期通常授業終了
24 (木)～30 (水)
前期定期試験
31 (木)
前期集中講義

8月

1 (金)～8 (金)
前期集中講義
2 (土)
オープンキャンパス
9 (土)
夏期休業開始
11 (月・祝)
(山の日)
12 (火)
5 月 6 日の祝日振替
13 (水)～16 (土)
事務局完全閉鎖
18 (月)
7 月 21 日の祝日振替
20 (水)
前期追試験許可者発表
21 (木)～22 (金)
前期追試験
23 (土)～24 (日)
オープンキャンパス

9月

6 (土)
夏期休業終了
オープンキャンパス
8 (月)～19 (金)
後期集中講義
15 (月・祝)
(敬老の日)
20 (土)
入試相談会
22 (月)
後期通常授業開始
23 (火・祝)
(秋分の日)
24 (水)
9 月卒業式
3 年生
就職ガイダンス 7
27 (土)
総合型選抜選考開始
～2 月 28 日まで
29 (月)～30 (火)
追加履修登録・
確認

10月

1 (水)～3 (金)
追加履修登録・
確認
8 (水)
3 年生
就職ガイダンス 8
13 (月・祝)
(スポーツの日)
22 (水)
3 年生
就職ガイダンス 9
25 (土)
入試相談会

11月

1 (土)
学園祭準備日
(授業なし)
2 (日)
学園祭
3 (月・祝)
(文化の日)
学園祭
4 (火)
学園祭片付日
(授業なし)
5 (水)
(創立記念日)
6 (木)
11 月 2 日の祝日振替
7 (金)
11 月 3 日の祝日振替
10 (月)～14 (金)
履修取消期間
23 (日・祝)
(勤労感謝の日)
24 (月)
(勤労感謝の日振替休日)
祝日授業実施

12月

3 (水)
3 年生
就職ガイダンス 10
6 (土)
留学生入試 1 期
11 (木)
卒業論文提出日
23 (火)
年内通常授業最終日
24 (水)
11 月 24 日の祝日振替
25 (木)～26 (金)
後期集中講義
29 (月)～31 (水)
事務局完全閉鎖

1月

1 (木・祝)
(元旦)
1 (木)～4 (日)
事務局完全閉鎖
5 (月)
通常授業開始
7 (水)
3 年生
就職ガイダンス 11
12 (月・祝)
(成人の日)
14 (水)
3 年生
就職ガイダンス 12
17 (土)～18 (日)
大学入学共通テスト
19 (月)
後期通常授業終了
20 (火)～26 (月)
後期定期試験
28 (水)
優秀論文発表会

2月

4 (水)
後期追試験許可者発表
5 (木)～6 (金)
一般選抜 1 期
後期追試験
11 (水・祝)
(建国記念の日)
20 (金)
一般選抜 2 期
留学生入試 2 期
23 (月・祝)
(天皇誕生日)

3月

6 (金)
卒業生発表
一般選抜 3 期
15 (日)
卒業式
16 (月)
卒業記念パーティ
20 (金・祝)
(春分の日)
21 (土)
オープンキャンパス



主要行事

第32回卒業式 卒業おめでとう!

令和7年3月15日(土)、第二体育館にて令和6年度卒業式が挙行され、卒業を祝いました。

令和6年度卒業生は、社会学部人間心理学科101名、現代社会学科81名、経営社会学科159名、メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科103名、情報文化学科81名、こどもコミュニケーション学科56名の計581名。

学年首席で学長賞に選ばれたのは、八下田結奈さん(人間心理)。総代は、各学科首席の成沢亜璃さん(現代社会)、三村裕夢さん(経営社会)、齋藤彩花さん(マスコミ)、鴨美紗貴さん(情報文化)、ビアンシニ理沙さん(こども)。成績・人物共に優秀で、各学科から優秀賞に選ばれたのは、高杉雅妃さん(人間心理)、杉浦美月さん(現代社会)、清水爽太郎さん(経営社会)、新井瑠奈さん(マスコミ)、池田航一さん(情報文化)、入野由朱花さん(こども)。千葉県知事賞は松本莉緒さん(現代社会)。千葉県私立大学短期大学協会会長賞は川崎瞭さん(人間心理)、全国保育士養成協議会会長賞は渡邊瑞歩さん(こども)。スポーツや文化活動において著しい活動があった学生から選ばれる特別賞には、竹之内大和さん(人間心理)、緒方偲乃さん(経営社会)。留学生で優秀な成績を修めた学生から選ばれる留学生特別賞には、グエンティランアインさん(情報文化)。強化指定部において著しい活動があった学生から選ばれる優秀アスリート賞には、頼所大翔さん(経営社会)。よく努力し、優秀な成績を修め、本学の名声を高めた学生から選ばれる記念品贈呈には、岩松沙弥さん(人間心理)。答辞は横手真里さん(こども)でした。

卒業式には昨年11月に惜しまれながらも閉店したお弁当販売のロビン江戸川大学の鶴谷隆明さん



鶴谷隆明さんと卒業生たち



んも駆け付け、卒業生たちにお祝いの言葉をかけていました。

また、3月17日(月)には浅草ビューホテルにて卒業記念パーティーが開催され、卒業生と教職員で在学中の思い出話を語らう、楽しい場となりました。

卒業式の様子や、卒業生へのインタビュー動画を大学公式YouTubeで公開しています。ぜひご覧ください。

第36回入学式 入学おめでとう!

令和7年4月3日(木)、第二体育館にて令和7年度入学式が挙行されました。式は対面で行われ全学科の入学生、保護者が集まりました。

一年次生は社会学部人間心理学科124名、現代社会学科94名、経営社会学科167名、メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科112名、情報文化学科83名、こどもコミュニケーション学科51名の計631名、三年次編入生は社会学部現代社会学科3名の入学が許可されました。

式後は、学生生活ガイダンスや先輩達による課外活動紹介等が行われ、入学生同士声を掛けあう等、新しい学生生活のスタートを切りました。



今年度はフォトスポットを設置

新任教員の紹介



林 承緯
リン ショウエイ

社会学部
現代社会学科・教授
出身地：台湾
最終出身校：大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻修士、博士（文学）
前職：国立台北芸術大学文化資源学院院長、伝統芸術研究センター長
芸術創新&文化資産博士課程主任、教授
主要担当科目：民俗学、イベントの人類学、観光社会学

民俗学を専門とし、2000年代より東アジアを視野に入れた研究を推進してまいりました。特に祭礼を中心とした比較研究に取り組むとともに、寺社参詣や進香・朝聖などの宗教的実践を通じた庶民文化、また文化芸術資源の保全・活用の在り方についても、民俗学的視点から継続的に研究しております。2008年に大阪大学大学院にて学位を取得し、以来18年間にわたり研究職に従事してまいりました。これまでに国立台北芸術大学にて文化資源学院長、伝統芸術研究センター長、芸術創新&文化資産博士課程主任などを歴任。また、国指定重要民俗文化財審議会委員、無形文化遺産推進委員会委員、日本民俗学会国際交流特別委員なども務めております。今後は江戸川大学の発展に少しでも貢献できるよう、真摯に努めてまいります。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



酒向 浩二
サカウ コウジ

社会学部
経営社会学科・教授
出身地：福岡県
最終出身校：慶應義塾大学経済学部卒業同大学院後期博士課程中退、博士（政策研究）
前職：元 みずほリサーチ&テクノロジーズ 調査部首席エコノミスト
阪南大学経済学部経済学科、教授
主要担当科目：日本経済入門、国際経営論/国際ビジネス論、国際マーケティング論/アジア経済論

平成期には政府機関およびメガバンクシンクタンクの調査部で約20年、エコノミストとして経済調査に従事してまいりました。令和期に博士号取得後は大学教員に転じ、現在は国際経済・国際経営の交差点に軸を置いて教育と研究に取り組んでおります。デフレからインフレ、ゼロ金利から金利のある世界、自由貿易から保護貿易、拡大からダウンサイジングへと移行する令和の経済環境の中、企業や個人がどう生き抜くべきかを問いながら、アカデミック界とビジネス界の橋渡し役として、本学の教育と研究への貢献を目指してまいります。



石山 智恵
イシヤマ チエ

メディアコミュニケーション学部
マス・コミュニケーション学科・教授
出身地：愛知県
最終出身校：ロンドン・シティ大学大学院ファイナンシャル・ジャーナリズム専攻修士、修士
前職：NHK ラジオディレクター、フリーキャスター
主要担当科目：アナウンス論、リポーター論、取材学、放送論

およそ30年、NHKで、テレビ・ラジオ番組のキャスター・リポーターを務めてきました。主な担当番組：NHK「ニュースウェーブ東海」「ウィークエンド中部」「BS経済最前線」BS-TBS「女子彩」NHKラジオ「つながるラジオ」「子ども科学電話相談」など。特にインタビューは多数経験しています。10年間担当した経済番組では、100人を超える企業トップにインタビューし、BS-TBSの番組では、様々な分野で活躍する女性たち100人にインタビューしました。番組制作ディレクターとして、企画・取材・演出も手掛けてきました。2021年から、中央大学国際情報学部兼任講師として、ゼミなどを担当しています。未来を担う人材の育成に、微力ながら貢献できたと願っています。ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



市村 由起
イチムラ ユキ

基礎・教養教育センター
准教授
出身地：千葉県
最終出身校：熊本大学大学院社会文化科学教育部教授システム学専攻博士後期課程修了、博士（学術）
前職：千葉県科学技術振興機構、助教
主要担当科目：アカデミックスキル演習I・II、情報リテラシー

専門は教育学で、インストラクショナルデザイン（ID）を中心に研究しています。MOOCs（大規模公開オンライン講座）の発祥地カナダにおいて、MOOCsの設計の研究を開始し、帰国後にデザインモデルをまとめました。現在は、学びの効率・効果・魅力を高めることを目指して、オンライン教育や大学の授業設計に関する研究に取り組んでいます。これまでに、複数の大学で情報基礎科目や初年次教育を担当しました。以前はテレビの報道やドキュメンタリー番組の取材記者をしており、社会人を経た「学び直し」が現在につながっています。こうした経験から、学生一人ひとりが自己主導で主体的に学びをデザインする力を育みたいと考え、日々取り組んでいます。IDをいかして、教育に関わる課題の改善と学習環境の向上に貢献できるよう精進したいと思っています。ご指導のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



坂上 陽三
サカガミ ヨウゾウ

社会学部
経営社会学科・教授
出身地：兵庫県
最終出身校：大阪芸術大学映像計画学科
前職：株式会社バンダイナムコスタジオ、スーパーバイザー
主要担当科目：ゲームビジネス概論、ゲームコンテンツ論、ゲーム産業論

1991年にバンダイナムコエンターテインメント（旧ナムコ）に入社し、30年以上、ゲームビジネスに関わり、プロダクションにて多くのプロデューサーを統括し、年間100タイトル近くの商品を創出、運営する事業に従事してきました。商品開発から販売、その後の運営まで、製販一体で培った経験や事例を活用し、学生の皆さんに創り出すこと、価値を生み出すこと。それを成長させること。この3つを軸にエンターテインメント事業の楽しさとやりがいを感じてもらおうプログラムを提供したいと思っています。教員として私自身は学ぶことが多いですが、期待に応えるよう成長していきたいと思っています。今後とも何卒よろしくお願ひします。



中西 哲
ナカニシ テツ

社会学部
経営社会学科・教授
出身地：兵庫県
最終出身校：立教大学大学院ビジネスデザイン研究科博士課程後期課程修了、博士（経営管理学）
前職：跡見学園女子大学マネジメント学部、准教授
主要担当科目：金融ビジネス基礎、投資ビジネス論、コーポレートファイナンス

江戸川大学には2008年から10年間ほど非常勤講師としてお世話になっていました。昨年末に久しぶりに江戸川大学を訪れた際には懐かしい気持ちになりました。しかし、専任教員として着任してみると知らないことだらけで日々新鮮な気持ちで働かせていただいております。私の教員としての特徴は「銀行員×起業家×研究者」である点だと思っています。こうした特徴に加え、女子大学で専任教員をしてきた経験を生かし、学生の利益のために貢献していきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。



松田 稔樹
マツダ トシキ

メディアコミュニケーション学部
情報文化学科・特任教授
出身地：東京都
最終出身校：東京工業大学大学院総合理工学研究科システム科学専攻修士課程修了、博士（学術）
前職：東京科学大学リベラルアーツ研究教育院、教授
主要担当科目：教育学概論、教育制度論、情報科教育法I・II

専門は教育学で、本学と同様、前任校でも教職科目を担当しており、専門である「教育学」(本学では「教育方法学」)などを担当していました。本学で担当する科目は新たな分野ですが、これまで担当してきた科目でも前提科目として関連づけて指導することを意識してきたので、その経験を生かして、学びの成果を役立てる力を学生に育てたいと思っています。教職課程は、教職科目だけでなく、教員になった時に生徒に指導する教科内容についての専門科目を各学科で学びます。よって、私自身も専門科目の内容に興味を持ち、学科の先生方から学び、協力しながら、両者の関連づけを意識した授業をしたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。



渡邊 美紀子
ワタナベ ミキコ

心理相談センター
助教
出身地：神奈川県
最終出身校：武蔵野大学大学院人間社会研究科人間学専攻博士後期課程満期単位取得退学
前職：武蔵野大学心理臨床センター、相談員
主要担当科目：心理学的支援法、心理的アセスメント

現職前は映像関係のディレクター職に就いており、その後臨床心理の大学院に入学して臨床心理士、公認心理師の資格を取得しました。臨床では被害者支援に携わる機会が多く、トラウマティック・ストレスを受けた方々の心理支援などを行っています。研究では社交不安の介入方法のひとつである、ビデオフィードバックの研究を行っています。教育についてはまだまだ経験は浅いのですが、前職の心理臨床センターは大学院生の実習施設でもあり、実践的な教育を継続して行っていました。現職ではまだまだ若輩者で、先輩方の教えに多く助けられている次第です。少しでも江戸川大学に貢献できるよう精進していきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

人事

新任職員の紹介



事務局総務部学術情報課

出身地：千葉県

中川 桃子

ナカガワ モモコ

短期大学卒業後、地元企業に勤務しておりましたが、約15年前に江戸川学園法人事務局へ転職いたしました。その後、江戸川学園取手小学校の立ち上げ準備から開校10周年に至るまで、約11年間小学校にて勤務いたしました。この度、再びご縁をいただき、本大学総務部学術情報課にて勤務させていただくこととなりました。

小学校での勤務経験は学術情報課の業務とは異なりますが、過去の大学勤務と小学校勤務で培ってまいりました経験を生かし、教職員の方々と密に連携を取りながら、学生の皆様により良い環境で学べるよう、そして江戸川大学の発展に貢献できますよう、精一杯努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



事務局学務部学生課

出身地：千葉県

鷺野谷 飛

サギノヤ タカ

大学卒業後JAに入職し、アンテナショップや直売所の運営業務、管轄する地域の農畜産物を使用した商品開発、営農指導などに携わってまいりました。JA退職後は就農し、果樹や野菜の栽培に従事しておりました。

その後、江戸川大学とご縁があり、4月より学務部学生課にて勤務させていただいております。異業種からの転職ですが、課内の職員からのフォローもありとても働きやすく、先生方や学生との関わりで充実した日々を過ごしております。至らぬ点も多々あるかと思いますが、1日でも早く江戸川大学に貢献できるよう努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



事務局学務部教務課

出身地：新潟県

中山 史崇

ナカヤマ フミタカ

私はこれまで都内の大学職員として、履修管理や授業・試験対応、カリキュラムの作成、学部・学科の新設、関係省庁への申請に関する部署に所属し業務に従事してまいりました。大学職員として、学生へのサポートや教育環境の整備に携わる中で、様々な立場の方々と協働し、課題を乗り越える喜びや、成長する学生の姿にやりがいを感じてきました。

そしてこのたび、ご縁をいただき4月より学務部教務課に入職いたしました。これまでの経験を生かし、教職協働のもと学生及び教員が充実した教育・研究に取り組めるよう、日々の業務に努め江戸川大学の発展に貢献してまいります。至らぬ点もあるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



事務局学務部学生課

出身地：北海道

武田 香織

タケダ カオリ

これまで医療機関にて看護師として勤務してまいりましたが、コロナ禍をきっかけに、保健師として自治体で感染症対策などに従事しておりました。

2023年よりご縁があり、本学にて保健室業務や学生相談室の受付業務に携わってまいりましたが、このたび、専任職員として勤務させていただくことになりました。

これまで、病気の方々と接する機会が多い仕事でしたが、現在は、明るく大学生活を送る学生の皆さんや、それを支える教職員の皆さまと関らせていただき、毎日多くの刺激を受けております。

学生が安心して学生生活を送ることができるよう、また、教職員の皆さまにとっても働きやすい職場づくりの一助となれるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



事務局学務部就職課

出身地：千葉県

山岡 大吾

ヤマオカ ダイゴ

私は大学卒業後、フィリピンのセブ島にあるオンライン英会話の会社に勤め、英語講師の教育、IT業務をしており、その後日本に帰国し、国立大学に勤め、入試業務、国際関係の業務をしておりました。より近い距離で学生のサポートをしたいと思い、転職活動をしていく中で江戸川大学とご縁があり、この度、学務部就職課に配属となり、皆さまと一緒に働かせていただくこととなりました。私立大学での勤務は初めてで分からないことも多く、周りの方々のサポートを受けながら手探りで業務をしている段階ですが、少しでも早く仕事を覚えて貢献できればと思いますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

大学事務局長付（江戸川学園おおたかの森専門学校へ出向） 大井 愛



新規役職者の紹介



総合情報図書館長
土屋 薫 教授

このたび、総合情報図書館長を拝命いたしました土屋です。図書館には、情報を保存・共有し、大学生活を豊かにする「インフラ」としての役割が求められているかと思えます。これまでは利用者の立場から関わって参りましたが、今後は運営の視点からできることを整理しながら実践していきたいと考えております。

その上で取り組んでみたいことが2つあります。1つは授業以外における学生の居場所としての位置づけです。大学に来たらず図書館に行く。そして授業の時には、そこから各教室へ行く、という流れができないか。もう1つは、価値ある情報との出会いの場としての側面の強化です。

私の思いはさておき、まずはみなさまの利用しやすい施設の実現をと考えておりますので、お力添えのほどよろしくお願いいたします。



情報文化学科長
廣田 有里 教授

このたび、情報文化学科長を拝命いたしました廣田有里です。学科運営に携わる立場となり、気持ちを新たにしております。

本学科では、「情報システム」「情報デザイン」「国際コミュニケーション」の3つのコースを設け、それぞれの分野で求められる知識と実践力を身につけるための学びを展開しています。私は学科長として、この3コースの特色をさらに生かし、分野横断的な視点も取り入れながら、より実践的かつ柔軟な学びの強化に取り組んでまいります。

変化の激しい社会の中で、情報や言語を正確に読み取り、適切に伝える力はますます重要となっています。私たちは、学生一人ひとりがそうした力を身につけ、広い視野と深い専門性を持って社会に貢献できるよう、教育環境を整え、全力でサポートしてまいります。

今後とも、本学科へのご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



こどもコミュニケーション
実習センター長
大塚 紫乃 准教授

このたび、こどもコミュニケーション実習センター長を拝命いたしました。これまで積み重ねられてきた取り組みにより、実習の流れは明確化され、実習実施報告書も毎年発行されるようになっております。こうした実績をしっかりと受け継ぎながら、センター長としての責務を果たしてまいります。

保育実習や幼稚園の教育実習は、こどもコミュニケーション学科の学生にとって非常に重要な学びの機会です。学生一人ひとりにとって実りある実習となるよう、実習の運営を円滑に進めるとともに、個々の学生に寄り添った支援を、センター全体で力を合わせて取り組んでまいります。

こどもコミュニケーション実習センターの職員の皆さまをはじめ、教職員の皆さまのご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



国際交流センター長
神田 洋 教授

本学が教育理念として掲げる「情報化と国際化」の一端を担う任にあたることとなり、大きな使命を感じております。新井正彦前センター長が築いた海外研修制度を継承し、一人でも多くの学生が海外での学びを経験できるよう最善を尽くします。留学生の受け入れと修学環境の整備にも力を注ぎ、国際色豊かなキャンパスづくりに努めます。

今年度から英語系科目の運営もセンターの所掌となります。新たなメンバーとともにフレッシュな気持ちで業務に取り組めます。教職員の皆さまに支えられてのセンター運営と考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

退職者

【教員退職者（2025年3月31日付）】（7人）

人間心理学	特任教授	福田 一彦
経営社会学	教授	杉山 敏啓
マス・コミュニケーション学科	特任教授	新井 正彦

マス・コミュニケーション学科	特任教授	隈本 邦彦
マス・コミュニケーション学科	特任教授	内藤 和明
こどもコミュニケーション学科	特任教授	高橋 克
心理相談センター	助教	八鍬 博敏

名誉教授称号の授与

今年度名誉教授を授与されたのは、福田一彦先生、隈本邦彦先生、内藤和明先生、高橋克先生の4名です。

名誉教授の称号は、江戸川大学の教授として退職した者で、本学に教授として10年以上勤務し、教育上又は学術上特に功績があった者や、年数に達しないが、教育上又は学術上の功績が特に顕著であった者、本学の運営に関し功績が特に顕著であった者に授与するものです。

学内行事

江戸川ウォーク

新入生同士や教職員と
親睦を深めた1日

4月30日（水）に第23回江戸川ウォークが実施されました。全学部・学科の新入生、教職員など合わせて約600名が参加しました。10時30分、東武アーバンパークライン川間駅近くの公園に集合し、開会式を行いました。青空のもと、宮崎孝治学長の挨拶と末永尚准教授による準備体操が行われました。過ごしやすいく気候の中で、江戸川堤防のサイクリングロードを経由して清水公園までの約6キロの道のりを歩きました。

12時過ぎに清水公園のバーベキュー場に着いた後は、基礎ゼミナールごとに分かれてバーベキューを行いました。慣れている先生からアドバイスを受けながら、肉や野菜を効率よく焼いていたゼミもあれば、慣れない手付きで苦勞しながらも、協力して火をつけているゼミも見られました。共同作業を通して新入生同士や教員との会話も弾み、にぎやかで楽しい、春の一日を満喫しました。



新入生歓迎イベント

4月3日（木）の入学式終了後に、クラブ幹事会主催で新入生勧誘会を実施しました。大学生活は、授業や勉強だけではありません。2025年5月現在、江戸川大学には32の大学公認課外活動団体（学生団体）があり、日々精力的に活動を行っています。

す。それぞれの団体が熱意をもって団体の魅力や活動内容を新入生に紹介しました。

また、4月8日（火）、9日（水）の2日間にわたって、音楽系・ダンス系などの学生団体がパフォーマンスを行う新勧イベントも実施し、盛り上がりました。



マス・コミュニケーション学科の学生が多様な

江戸川大学生を紹介する映像作品を制作

マス・コミュニケーション学科の森川俊生教授が担当する「マス・コミュニケーション演習・実習」では、「江戸川大学の多様な学生紹介」をテーマに、履修者全員が短編作品を制作しています。

2024年度は、「好きな場所」「笑顔になる瞬間」「お気に入りの写真」の3項目について履修者全員がインタビューに答え、その映像を履修者全員で共有。動画内で使用されたキャッチコピー「スキ爆発」「笑顔でここから」「一瞬を永遠に」も学生たちがアイデアを出し合って決定しました。編集にはAdobe Premiere Proを使用し、各自がプランに基づいて30秒〜90秒程度の短編作品を完成させました。優秀作品に選ばれた6作品は大学公式YouTubeからご覧いただけます。



小久保利己ゼミ制作の ショートフィルム作品紹介

マス・コミュニケーション学科の小久保利己ゼミでは、短編映画の制作に取り組んでいます。2024年度の3年次ゼミ生は、『管理人たち』と題した作品を制作しました。学生たちは、監督、脚本、撮影、録音、美術、編集などの役割を分担し、作品作りに挑みました。作品は大学公式YouTubeからご覧いただけます。



本多悟ゼミが ゼミ誌『あっちこちば』を発行

マス・コミュニケーション学科の本多悟ゼミが、1月7日(火)にゼミ誌『あっちこちば』を発行しました。

本多ゼミでは、出版コンテンツ制作の基本となる編集知識を習得し、分析・研究することで一生使える「編集力」を身につけます。その研究成果として、企画、取材、撮影、レイアウト、執筆

などすべての制作工程を学生が主体となり雑誌制作を行っています。

2024年度3年次ゼミ生6名(足尾葵さん、妻神実咲さん、武田仁美さん、中川由菜さん、堀尾かのんさん、宮古待音さん)は、千葉県内を走る鉄道路線ごとにテーマを決め、電車に乗って千葉のあっちこちにある魅力をまとめました。ゼミ誌はマス・コミュニケーション学科のジャーナリズムコースのWebページにて公開しています。



情報文化学科の学生が 英語スピーチコンテストに参加

現在、日本の英語教育では、コミュニケーション力の育成が求められています。情報文化学科の水口小百合ゼミでは、英語に関する学外活動に力を入れており、2024年に引き続き柏市国際交流センターおよび柏市国際交流協会主催の英語スピーチコンテストに参加しました。

今回は、長戸声名さん(当時3年生)が参加し、『Life』というタイトルで、詩的な比喻表現を交えながら、人生という大きなテーマについてスピーチしました。

情報文化学科が 特別講義「ゲーム制作講座」を実施

情報文化学科は、1月28日(火)、31日(金)にデジタルハリウッド大学より山内三紀子先生を特別講師としてお招きし、ゲーム制作に興味がある学生を対象に「ゲーム制作講座」を実施しました。

本特別講義では、Unityという環境を利用してアクションゲームの一連の作り方を学びました。初めにUnityの画面の使い方や、ゲームの作り方の流れを学び、ゲーム内のフィールドマップ制作、プレイヤーキャラクターやボスキャラクターの動きや各種ステータスなどの設定、ゲーム内で流れるBGMや効果音などを選び、オリジナルゲームを開発しました。

参加学生からは「これから自分で新しいゲームを開発していきたい」「授業で学んでいるプログラミング技術が、根底ではゲーム作りと繋がっていることがわかった」など、ゲーム制作を通して深い学びについての感想が述べられました。

佐藤秀樹准教授がバン格拉デシュの 公立小学校で有機農園づくりを支援

現代社会学科の佐藤秀樹准教授が、企画立案および専門家として参加している「バン格拉デシュ・ジョシヨール県の零細ヤシ糖生産者と花卉農家の6次産業化を通じた生計向上プロジェクト」

教育・研究活動

の一環として、10校の公立小学校で有機農園づくりに取り組んでいます。

次世代を担う小学生を対象としたこの活動は、環境への負荷をかけず、地域の自然環境の保全や健康意識の向上を目指した環境教育の一環として実施。学校の敷地内に有機農園を設置し、生徒が実際に作物を育てる経験を通じて、持続可能な農業や環境保全の重要性を学ぶことを目的としています。

また、有機農園をテーマとした絵画コンテストも開催し、グループごとに農園の整備や作物の成長過程など、有機農業の経験をもとに絵を描きました。完成後には各グループが自分たちの作品を発表し、有機農園活動の意義を共有しました。



佐藤准教授と小学生たち

玉田和恵教授が流山市青少年育成会議
研修会で講演

情報文化学科の玉田和恵教授が2月

9日(日)、千葉県流山市生涯学習センター多目的ホールにて青少年育成会議運営委員、教職員、保護者を対象とした流山市教育委員会文化芸術・生涯学習課主催の研修会で講演を行いました。玉田教授は講演で、生成AIの教育活用が推進されている現在、「なぜ、今、情報モラルが重要か」「情報モラル問題解決力の育成」「新たな課題への対応」について概説しました。また、コミュニケーショントラブルや情報拡散をどう回避するか、長時間のネット利用を防ぐコツなどを解説しました。

参加者からは、「問題の本質を捉えて、子どもと一緒にネット利用について考えていきたい」「流山市にある近隣の大学でこのような研究が行われているということを知り、今後連携を深めていきたい」といった感想が寄せられました。

江戸川大学睡眠研究所スタッフの 研究成果が国際学術誌に掲載

江戸川大学睡眠研究所の浅岡章一教授、山本隆一郎教授、野添健太准教授、西村律子准教授による研究チームが睡眠習慣および眠気と内受容感覚との関連に関する最新の研究成果をまとめた論文「Relationship between sleep variables and interoceptive awareness in daytime workers」が、国際的なオープンジャーナル誌『PLOS One』にアクセプトされました。

「内受容感覚」とは、身体内部の状態

(例えば、心臓や胃腸の状態)に対する感覚を指します。この内受容感覚は、身体内部環境を一定程度の範囲に保つこと(ホメオスタシス)に重要であるだけでなく、感情や動機付け、精神的健康にも関連する事が示されてきました。

本研究では、日勤労働者を対象に、この内受容感覚と睡眠習慣、および眠気との関連についてWeb調査を用いて検討しました。その結果、睡眠習慣よりも主観的な日中の眠気の強さが内受容感覚と強く関連する事を示しました。しばしば、質問紙によって測定された主観的な眠気の評価は、生理学的・行動学的手法による客観的な眠気の評価と乖離しますが、今回の研究成果は眠気評価の個人差を内受容感覚の差異が説明しうる可能性を示すものと言えます。

江戸川大学国立公園研究所が「生物多様性 保全と保護地域・ネイチャーポジティブ に向けた連携を考える」を開催

江戸川大学国立公園研究所は、3月1日(土)に一般公開フォーラム「生物多様性保全と保護地域・ネイチャーポジティブに向けた連携を考える」を開催しました。

フォーラムでは、希少野生生物の保護増殖や生息地の再生に最前線で取り組む3名の講師をお招きし、講演後にはパネルディスカッションを実施しました。

参加者からは、「中部山岳・妙高戸隠、奄美群島・小笠原など話題の国立公園

から、野田市や流山市を含む関東全域での取り組みまで、幅広く生物多様性保全について考える機会となった」「これほどの専門家の方々の話を一度に聞ける機会は貴重で刺激的だった」といった感想が寄せられました。当日の様子は、国立公園研究所Webページでアーカイブ配信を行っています。

江戸川大学睡眠研究所が 第16回学術フォーラムを開催

江戸川大学睡眠研究所では、研究技術・技能の研鑽を目的に、2019年度より学内外の研究者を講師として招聘し、学術フォーラムを開催しています。

2月12日(水)に行われた第16回学術フォーラムでは、国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)の宮内哲先生をお招きし、「脳波が脳波になるまで——Hans Bergerによる脳波の発見——」というタイトルでご講演いただきました。

本講演では、ドイツ・イエナ大学の精神科医、ハンス・ベルガーの生涯を紹介するとともに、ヒトの脳波発見に至るまでの道のりや、脳波が世界的に認められるようになるまでの過程について、数多くの貴重な資料を交えて、詳細にお話しいただきました。

当日は学内外の研究者や本学の学生が多数参加し、宮内先生が語る先人たちの研究に対する創意工夫や熱意について、熱心に耳を傾けていました。

教育・研究活動

本学教員の著書

制御適合理論に関する実証的研究」が筑波大学出版会より出版されました。

本書は、筑波大学の外山美樹教授が研究代表者を務め、長峯講師が所属していた共同研究グループの長年の成果をまとめたものです。制御焦点という目標志向性（成長・獲得を重視する「促進焦点」と、義務・責任を重視する「防止焦点」の2つに大別）を1つの軸として行われた複数の研究について、論文形式をベースとして体系的に整理した専門書となっています。

長峯講師は第2部実証研究の「第7章 制御適合が価値に及ぼす影響」を担当し、主に制御焦点と特定の方略・条件との合致が態度や価値の形成に及ぼす影響についてまとめました。また「第8章 対人的な制御適合①——他者の存在——」では、長峯講師が第一筆者として執筆した複数の論文（制御焦点と具体的な他者の組み合わせがパフォーマンスに及ぼす影響を検討した研究に関するもの）もまとめられています。



中島慶二特任教授が分担執筆した『LIBRARY ichiko』が出版

現代社会学科の中島慶二特任教授が分担執筆した『LIBRARY ichiko』が文化科学高等研究院出版局より出版されました。

本書は三和酒類株式会社が発行する文化広報誌『季刊 ichiko』を市販用に編集したもので、今号では「エコツーリズムの文化学」を特集しています。

中島特任教授は「普及と定着にむけたエコツーリズム政策形成における論点」というタイトルで、日本におけるエコツーリズムが普及していった経緯や、実施に伴う問題点などについて論じています。



川瀬由高准教授が分担執筆した

『よくわかる文化人類学』第3版が出版

現代社会学科の川瀬由高准教授が分担執筆した『よくわかる文化人類学』第3版がミネルヴァ書房より出版されました。

本書は、文化人類学の主要なテーマをわかりやすく解説した、日本を代表する文化人類学の入門書です。

川瀬准教授は、今回の第3版で新た

に設けられた第2部「新たなテーマ」の中で、第11章「コミュニティ」を担当。コミュニティ概念の特徴と、文化人類学の100年史におけるコミュニティの捉え方の変遷についてまとめています。



福田一彦名誉教授が寄稿した

『睡眠文化論』が出版

福田一彦名誉教授が寄稿した、『睡眠文化論』（豊田由貴夫・睡眠文化研究会（編））が淡交社より出版されました。

本書は、睡眠を「睡眠文化」として捉え、京都大学や立教大学で多様な分野の専門家によって行われたリレー講義を書籍化したもので、福田名誉教授は第2部第7章「金縛りと文化」、第4部コラム「睡眠の研究を俯瞰する」とを担当しています。



西村律子准教授がコラムを執筆した『はじめよう！心理学研究』が出版

人間心理学科の西村律子准教授が、コラムを執筆した『はじめよう！心理学研究』（浦上昌則・藤田知加子・解良優基編著）がナカニシヤ出版より出版されました。

本書は、心理学分野で卒業研究のテーマを決めたり、ゼミナールを選択したりする学生に向け、「どのように自分の研究テーマを決めればいいのか」を考えるためのアドバイスを詰まった書籍です。マンガで示された事例をもとに、学生（ココロさん）と心理学を研究するさまざまな教員との対話を通じ、追体験しながら考えることができます。

西村准教授は、ゼミナールでの研究の中から、特に優れた学生の研究例を紹介しています。



経営社会学科の学生が社会課題の解決策を発表し合う発表・交流会に参加

経営社会学科の山田洋介教授の専門ゼミナールに所属し、社会課題の解決に向けたビジネスプランの検討に取り組んでいる佐藤光さん、内藤大道さん、松村圭一朗さんの3名が、千葉県東葛飾地域の高校生と大学生が社会課題の解決策を発表し合う「2025ソーシャルインパクトプロジェクトの為の発表・交流会」(主催: SOCIAL STARTUP STUDIO KASHIWA 実行委員会)に参加しました。

3名が提案した課題解決策は、「SNSを活用し地域の高齢女性をつなぎ、笑顔を生み出す新しいコミュニティの創出」。コミュニティでの具体的な活動内容や、リアルとオンラインの双方でその場を提供する仕組み、それを大学生が彼らの得意とするSNSを活用してサポートすることなど、実現に向けた具体的なプランを発表しました。



廣田有里ゼミナールがシニア向けスマートフォン講座に協力

情報文化学科の廣田有里教授の専門ゼミナールに所属する学生たちが、千葉県流山市の東部公民館が主催するスマートフォン講座にボランティアとして協力しています。

この講座は、主に流山市在住のシニア向けにスマートフォン活用をサポートすることを目的として実施されているもので、廣田ゼミでは、2024年9月から月1回のペースで本講座に協力しています。

2月の講座は春休み期間中となり、多くの学生が参加できることから、これまでの講座で寄せられた質問を集約し、ゼミメンバーでのグループワークで講座内容を検討しました。資料も学生が作成し、アプリのインストールの仕方から、YouTube、Googleマップ、LINE、Instagramの使い方や、ネットリテラシーについてワークショップを行いました。

男女バスケットボール部が中学生対象のバスケットボールクリニックを開催

男女バスケットボール部が2月24日(月・祝)に、地域の中学生を対象に「第3回 EU Basketball Academy」(江戸川大学バスケットボールクリニック)を実施しました。

第1部の実技講習は、ややレベルの高い内容も取り入れて行われました。

学生たちは指導する中学生の熟達度に合わせ、細かいアドバイスを送るなど、自ら考えて指導を工夫していました。

第2部では女子バスケットボール部スタッフで管理栄養士の柴崎真木さんが講師を務め、「ジュニア期の栄養について」と題した栄養講習を実施しました。保護者や指導者の方々も参加し、熱心に講習に耳を傾けていました。



江戸川大学と千葉県立流山南高等学校が高大連携協定を締結

3月26日(水)、江戸川大学と千葉県立流山南高等学校は、高大連携協定の調印式を行いました。

本協定は、両校の交流を通じて教育・研究の充実と発展を図ることを目的としており、特に「デジタル等成長分野を支える人材育成の強化方策」につ

ても連携協力事項として掲げた各項目に含めています。

式には流山南高等学校の横山和穂教頭や「情報」科目を担当する教員、さらに情報教育研究会を通じて滑川校長と交流を深めてきた江戸川大学情報教育研究所の教員も出席し、和やかな雰囲気の中で調印が行われました。



宮崎孝治学長(左)と滑川敬章校長(右)

女子バレーボール部が知的障害者のバレーボール大会の運営をサポート

女子バレーボール部が、知的障害者のバレーボール大会「IDバレーボール大会2025」の運営をサポートしました。

本大会は、NPO法人スマイルクラブが主催したもので、流山市共催、千葉県後援のもと、2月2日(日)にキッコーマンアリーナ(流山市総合体育館)で行われました。女子バレーボール部のメンバーは、試合の審判を務め、東京オリンピック・東京オリンピック出場場の石島雄介選手(愛称ゴッツ)と「江戸大スペシャルチーム」を組んで大会

社会・地域との連携・交流活動

にオープン参加しました。



教員免許状取得を目指す学生を対象に
教職課程センターが高校訪問企画を実施

教職課程を履修している学生が、2月27日（木）に、高大連携協定を結んでいる西武台千葉中学校・高等学校を訪問しました。

中学校および高等学校の教員免許状取得を目指す学生5名が参加し、学校施設や国語・社会・英語の授業を見学しました。また、各教科（国語・社会・英語・情報）を担当する先生方との座談会も実施されました。学生たちは、教職に関する疑問や自身の課題について現職の先生方に質問し、現場の生の声を聞くことができる、有意義な時間となりました。

参加した学生からは、「私立の中高一貫校の特色や、教員の業務や授業作りにおける工夫について深く学ぶことができた」といった感想が寄せられました。

こどもコミュニケーション学科の学生
が小学生向けの宿泊型スポーツ体験イベントでボランティア



こどもコミュニケーション学科の学生4名が、5月3日（土）から5月4日（日・祝）にかけて、静岡県富士市のエスプラットフジスパークで開催された「expANDA クロススポーツキッズイベント」に、ボランティアとして参加しました。expANDAは、小学2年生から6年生（7歳〜11歳）の「ゴールデンエイジ」と呼ばれる時期の子どもを対象としたスポーツ体験イベントです。こどもコミュニケーション学科の守屋志保教授がアドバイザーを務めており、同学科の学生が2022年度から継続的に参加しています。テコンドー・フェンシング・スケートボード・縄跳びなど、複数のスポーツに触れることで、自立と自律を促し、主体性・積極性・協調性を養うことを目的としています。

イベントに参加した学生たちは、子どもたちのスポーツ体験をサポートしながら、1泊2日の宿泊プログラムならではの学びも得ることができ、子ども理解を深める貴重な機会となりました。



流山グリーンフェスティバルの企画・運営に江戸川大学学生が参加

5月4日（日・祝）「みどりの日」に、流山おおたかの森駅（千葉県流山市）の森のまち広場にて、千葉県流山市の花と緑の祭典『流山グリーンフェスティバル2025』が開催されました。今年のテーマは「みんなの庭 一人一人が楽しめる街。」で、情報文化学科の廣田有里ゼミの学生が実行委員会ではプレゼンテーションを行い選ばれました。

今年も廣田ゼミが花絵のデザインを企画・担当し、現代社会学科の土屋薫ゼミ、地域のボランティアの方々と共に、花と野菜の苗を並べて『双葉』をイメージして作り上げた5.4m四方もの巨大花絵が会場を彩りました。また、マス・コミュニケーション学科の学生で組織する学生広告代理店「エド・アド」（社長・福島七海さん、顧問・井上一郎教授、王令薇助教）が駅南口の階段にステップアートを制作しました。現代社会学科の学生は、子どもを対象としたぬりえブースのお手伝いや、出店していたキッチンカーの調査などフィールドワークの場としても参加しました。本学の学生たちは地域の方と一丸となってイベントを盛り上げていました。



花と野菜の苗を並べた巨大花絵



エド・アドが制作したステップアート

紀要等の発行

こどもコミュニケーション学科の学生が8歳以下の子どもを対象としたバスケットボールによる社会貢献活動に参加

こどもコミュニケーション学科では、千葉県バスケットボール協会・B1千葉ジュッツふなばし・B1アルティール千葉・株式会社NONOと共催で、8歳以下の子どもを対象としたバスケットボール講習会を開催しています。2024年度よりスタートしたこの取り組みは、子どもたちにスポーツの楽しさを知ってもらうことを目的とした社会貢献活動です。

5月10日(土)には、2025年度初回となるキッズ講習会が愛国学園大学附属四街道高等学校にて開催され、こどもコミュニケーション学科の学生4名と江戸川大学女子バスケットボール部のトレーナー1名がボランティアとして参加し、子どもたちの指導にあたりました。



2025年度えどがわ・こどもサロン活動報告

こどもコミュニケーション研究所は5月17日(土)に「えどがわ・こどもサロン」を開催しました。今年のテーマは「芝生で一緒に遊ぼう」。未就学児13名とその保護者13名が参加しました。

当日はあいにくの雨により、会場を体育館に変更して実施しました。会場では、こどもコミュニケーション学科の教員と学生ボランティアが準備および当日の運営を担当しました。参加者はレジ袋で風を作って風あげをしたり、親子でラレーン体操を踊ったり、パラバレーンを楽しんだり、広い体育館の中で思いきり体を動かして遊びました。

保護者同士のフリートークの時間には、「雨だったからこそ、広い体育館で遊ばせてもらえてよかった」「また夏にも開催してほしい」「いっぱい体を動かして遊びたい」などの意見・感想が寄せられました。子どもたちと保護者の笑顔に触れ、学生ボランティアおよび教員一同によって、やりがいを感じる一日となりました。

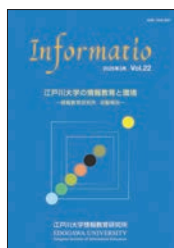


江戸川大学紀要 第35号



3月15日(土)に「江戸川大学紀要第35号」が発刊されました。今号には31本の論文・原稿が掲載されています。2学部6学科という多彩な研究分野を有する本学の特徴がよく出ており、多様な研究領域の水準の高い研究成果を楽しむことができます。

情報教育研究所紀要 Informatio 第22号



2024年度の情報教育研究会で行われたパネルディスカッション「情報Iが始まって、授業はどう変わったか?」や、夏と春に行われたサイエンスセミナー、情報教育ワークショップでの研究発表が掲載されています。

その他、教育制度論用の探究活動導入事例の開発、生成AIのみでは解決できない課題提示のあり方、アクティブラーニング教室と情報リテラシー教育、ながらスマホが幼児に及ぼす影響に関する研究論文等が掲載されています。

江戸川大学国立公園研究所年次報告 NP FORUM 第9号



国立公園研究所の年次活動報告書として、研究所スタッフによる国内外の国立公園等に関する論文、研究報告、雑誌掲載記事等を掲載しています。

今号では、バングラデシユの農村開発、本学所蔵のナショナル・トラスト資料、奥日光における団体利用など、多彩なテーマを取り上げた7報の論文をはじめ、2024年2月に開催した公開シンポジウム「2030年に向けた水辺の外來種対策」の記録など、2023年度に実施した活動の報告をお読みいただけます。

図書館報エウレカ 第52号



今号では退任される杉山敏啓図書館長のご挨拶や、図書館の看板リニューアルや拡張、本学教員からのお薦めの1冊の紹介をしています。また、2024年度より再開したブックハンティング、図書館スタッフからのお薦めの本など皆さんへのお役立ち情報を掲載しています。

各学科による優秀論文・卒業論文発表会が1月29日(水)に実施されました。当日は3年生以下の学生も参加し、4年生の発表に耳を傾けていました。ここでは、最優秀論文として選考された卒業論文もしくは学科の代表として選ばれた卒業論文を紹介します。

社会学部

人間心理学科

「睡眠教育の睡眠改善効果…児童生徒を対象としたクラスターランダム化比較試験に関する系統的レビュー」

川崎瞭さん(山本隆一郎ゼミ)

児童生徒に対する睡眠教育の有効性を検討した研究について、それらを統合した系統的レビューでは、一貫した知見は得られていません。その理由として既報の系統的レビューでは、包含基準が広く、研究間誤差とバイアスの混入の両者の影響によって結論が不安定になっていると考えられます。本研究では、クラスターランダム化比較試験のみを対象に効果検証デザインを統制した系統的レビューを行いました。メタ分析による定量的統合の結果、睡眠教育は睡眠時間や睡眠習慣に統計学的に意味のある効果は確認されませんでした。そこで効果量の高い研究を抽出し定性的に統合したところ、睡眠教育の効果が高かったとされる研究では睡眠教育で学んだ知識と行動変容のギャップを埋めるための工夫が行われていることが見出されました。

現代社会学科

「B・革新」が日本全体に与える影響について

——アリーナ建設の現状と今後の課題——

松本莉緒さん(野上玲子ゼミ)

本研究は、日本のプロバスケットボールリーグ「B.LEAGUE」の「B・革新」によって建設されたアリーナが、地域や日本全体に与える影響について考察しました。B.LEAGUEに所属する2チームの新アリーナについて、フィールドワークとアンケート調査を行い、分析した結果、新アリーナの建設や既存アリーナの改修は、アリーナスポーツ界の発展を牽引し、「B・革新」には地域貢献および国内プロスポーツ全体の発展を牽引する可能性が十分にあることを示しました。

経営社会学科

「バスケットボールにおけるアマチュアとプロの食習慣の違い」

網野碧波さん(伊藤彬ゼミ)

スポーツ現場では蓄積した疲労をいかに素早く効果的に除去していくか、また、いかに疲労を蓄積しないようにリカバリー戦略を組んでいくかが、チーム強化のための重要な課題となっています。本研究はバスケットボール競技のプロ選手とアマチュア選手を対象に、食事調査や栄養摂取に関するアンケート調査、プロ選手に対して栄養摂取に関するインタビュー調査を行いました。調査の結果、プロ選手は栄養摂取状況が良好であるのに対

し、アマチュア選手は摂取エネルギー量が不足し、栄養バランスが乱れているという結果が得られました。

メディアコミュニケーション学部

マス・コミュニケーション学科

「明文化できない美の追求 ボディビル審査基準を巡る考察」

畑岡峻介さん(神田洋ゼミ)

スポーツのルールという観点からボディビルの分析を試みました。人文社会学の分野では、男性性や「のめりこみ」など競技者に焦点を当てた先行研究が多くあります。本論文は競技としてのボディビルに着目し、審査基準の文言がいまいでありながら競技スポーツとして成り立つ理由を説明しました。フィギュアスケートや体操などの採点競技との比較から、身体を作品として評価するボディビルの特殊性を明らかにし、盆栽や書道展の審査基準にまで対象を広げ、あいまいな文言の有効性を示しました。

情報文化学科

「生成AIにおける類義語が持つ性質の違いについて

——生成動画の比較——

一瀬友さん(詹萍ゼミ)

本研究では、Runway Gen-3 Alphaという動画生成ソフトを使った。50 most common nouns in English、およびその類似語

(Cambridge University Press の運営する Cambridge Dictionary) を1〜3種類選び、選んだ単語を主軸に英文を各10回作成し、生成された動画の結果を比較しました。その結果、フィジカルな名称、または人間とは関係のない単語の場合、単語本来の意味合いに一致する、非常に正確な結果を返すことが多くと判明しました。一方で、概念的・抽象的な名称や人に関係する単語の場合、生成される結果は単語本来の意味に加えて、ニュアンスが強い傾向にあること、国や文化背景にも一定の影響が見出されました。

こどもコミュニケーション学科

「家族関係が子どもの性格形成に及ぼす影響

——大学生へのアンケート調査からの考察——

横手真里さん(村上涼ゼミ)

本研究は、子どもに関わる大人へのアンケート調査ならびに子どもへの実験を通して、保育における音楽の効果を明らかにした論文です。アンケート調査では、子どもに関わる保育者、教員、保護者を対象に子どもの養育・保育での音楽の活用度や、音楽の効果に対する考え方について調査を実施しました。実験では4、5歳児に対して、音楽あり・なしの2条件で描画表現の比較を行いました。考察では、音楽が子どもの発達に与えるポジティブな効果を認めながら、効果を引き出すためには、音楽のみに頼ることなく、音楽を保育のツールとして活用する重要性について論じました。

外部表彰

人間心理学科の長峯聖人講師が日本心理学会第 88 回大会で特別優秀発表賞を受賞

人間心理学科の長峯聖人講師が、日本心理学会第 88 回大会において行った一般研究発表で、特別優秀発表賞を受賞しました。同賞は、日本心理学会が開催する当該年度の学術大会において、優秀と認められた研究発表の中でも、特に卓越した研究に授与される賞です。今回の受賞は、困難な目標に直面した場面に焦点を当て、心的対比（理想の姿とそれを妨げる障害の両方を考える方略）を用いることで、目標追求が促進されることの文化差を実験的に示した点が評価されました。

長峯講師のコメント

本大会は日本の心理学系の学術大会で最大規模のもので、毎年さまざまな分野の先生方が数多くの発表をされています。そのような中で最も名誉ある賞をいただけたことを大変光栄に思います。審査をしてくださった先生方には、心より感謝申し上げます。

受賞対象となった研究は私が大学院生の時から長年にわたり共同研究を行ってきたチームで実施してきたものです。「日本人ならではの強みを打ち出せないか」という視点を念頭に置きながら進められてきたため、高い評価をいただけたことを大変嬉しく思います。

今後も、国内外にインパクトを与えられるような面白い研究を続けていけるよう、精進してまいります。

情報文化学科の学生が「令和6年度東京都 SNS トラブル防止動画コンテスト」で受賞

東京都が主催する「令和6年度東京都 SNS トラブル防止動画コンテスト」の静止画部門で、メディアコミュニケーション学部情報文化学科の齋藤紫さん（受賞当時は2年生）が審査委員特別賞を受賞し、同学科の嶋根歩美さん、岡部楽磨さん（受賞当時は1年生）がそれぞれ入選しました。このコンテストは、東京都生活文化スポーツ局都民安全推進部が近年問題となっている SNS 利用によるトラブルや自撮り被害などから青少年を守るための啓発活動として開催しています。受賞作品は同コンテストの公式 Web ページで公開されたほか、東京都庁第一本庁舎1階のアートワーク台座などに掲示され、AINZ&TULPE 新宿東口ビジョンなどでも放映されました。



2024年度資格取得支援制度の利用者数

資格名称	人数
実用英語技能検定（英検）2 級	7
実用英語技能検定（英検）準 2 級	4
TOEIC 800 点以上	2
TOEIC 700 点以上	2
TOEIC 600 点以上	3
TOEIC 500 点以上	10
TOEIC 400 点以上	7
基本情報技術者試験	5
情報セキュリティマネジメント試験	4
IT パスポート試験	19
Microsoft Office Specialist (MOS)	90
Web デザイナー検定 ベーシック	3
マルチメディア検定 ベーシック	42

資格名称	人数
CG クリエイター検定 ベーシック	3
ウェブデザイン技能検定 3 級	1
日本漢字能力検定（漢検）準 1 級	1
日本漢字能力検定（漢検）2 級	6
日本語検定 2 級	1
簿記検定試験（日商）2 級	1
簿記検定試験（日商）3 級	12
ビジネス会計検定 2 級	2
ビジネス会計検定 3 級	8
ファイナンシャル・プランニング技能検定（FP）2 級	1
ファイナンシャル・プランニング技能検定（FP）3 級	8
秘書検定 2 級	4
秘書検定 3 級	35

資格名称	人数
ファッションビジネス能力検定 3 級	5
イベント検定	5
日本語能力試験 N1（留学生対象）	7
心理学検定 特 1 級	1
睡眠改善インストラクター	7
ニュース時事能力検定 2 級	13
ニュース時事能力検定 準 2 級	1
メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅲ種（セルフケアコース）	1
世界遺産検定 2 級	2
世界遺産検定 3 級	9
合計	332

施設・設備



東門駐輪場



東門左側が自転車専用、右側が歩行者専用の通路



正門駐輪場



バイク置き場

駐輪場の改修工事の実施

東門周辺の視界の悪さ、歩行者と自転車の交錯の危険、東門駐輪場のキャパシティ不足を解消するため、駐輪場の改修工事を実施しました。また、正門駐輪場の駐輪スペースの拡張工事を実施したほか、北門付近の第3駐車場をバイク通学許可者のバイク置き場に改修する工事も併せて行いました。

チャイムのメロディーを江戸川大学校歌に変更

2025年4月より授業の始まりと終わりを告げるチャイムを「江戸川大学校歌」のメロディーに変更しました。通常は30秒の短縮版が流れ、1日の締めくくりとなる5限終了時（18時30分）には、60秒のフルバージョンが流れます。学生や教職員が校歌と接する機会はありませんが、江戸川大学と江戸川女子短期大学、江戸川短期大学の卒業生や教職員に親しまれてきたメロディーを耳に残してもらいたい、江戸川大学の一体であることを実感していただきたいと思います。校歌は本学Webページで聴きいただけます。

女性用パウダールームを新設

江戸川大学では、学生にとって居心地のよい空間づくりと学生生活の利便性向上を目的として、絶えずキャンパスの改善を図っています。

その取り組みの一環として、学生からのリクエストに応え、D棟1階北側のトイレを洋式化するとともに、隣接スペースに女性用パウダールームを新設し、2025年4月の新学期から利用が開始されています。白を基調とした明るく清潔感のある空間に、合計14面の鏡が設置され、それぞれに電源コンセントと荷物置き用のカゴも備え付けられています。

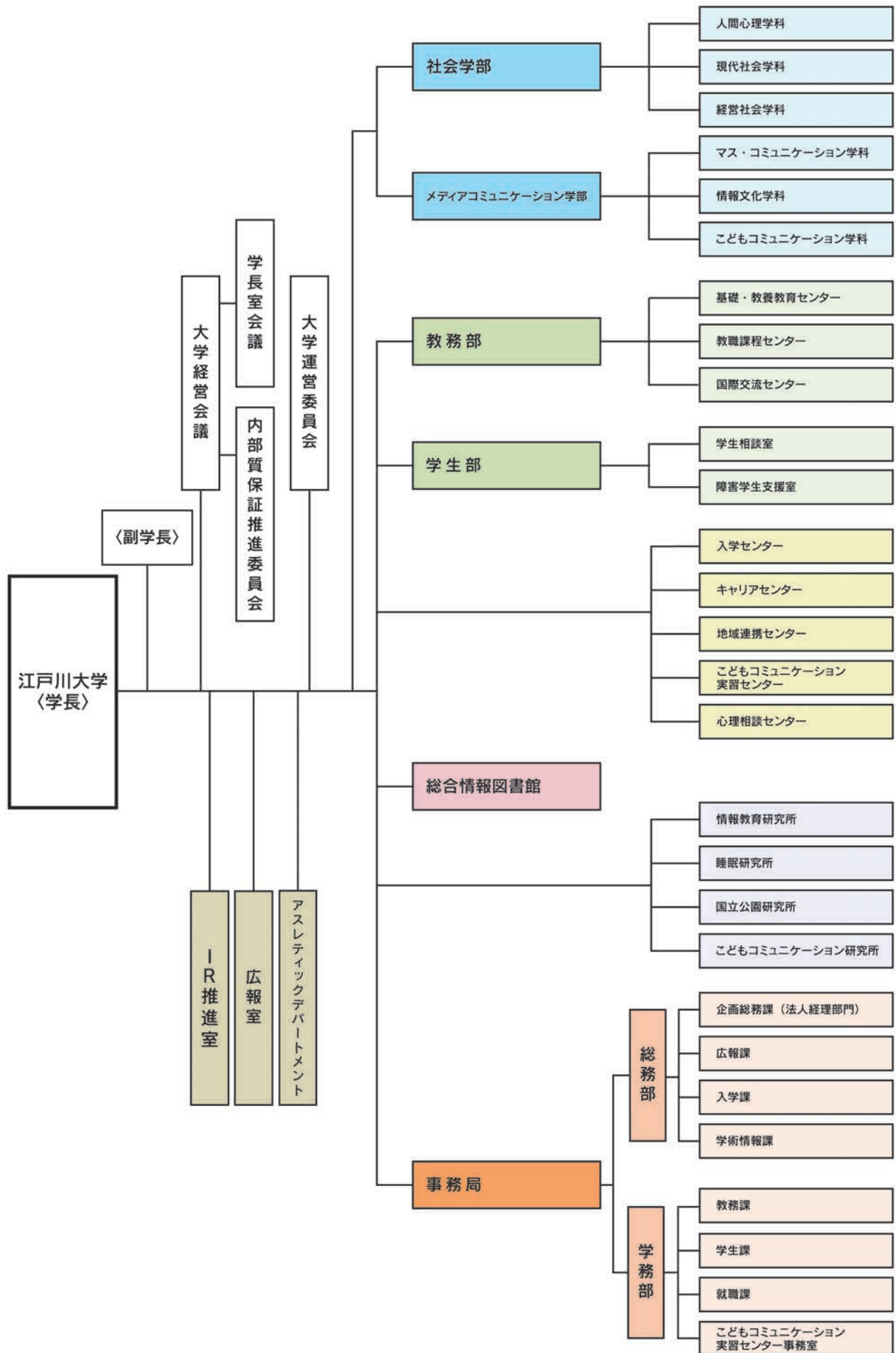
廣田有里教授（2024年度 Campus Comfort+ プロジェクト座長）のコメント

学生へのアンケートを実施し、プロジェクトメンバーと検討を重ねた結果、素敵なパウダールームを設置できてうれしく思います。ゼミの学生

たちからも「身だしなみが整えやすい」と大変好評です。リフレッシュタイムや、オンライン採用面接前のメイクチェックなど、さまざまな場面で活用してもらえればと思います。



2025年度 江戸川大学 教育・研究・事務組織図



2025年度 学内研究助成金配分表

学部

(単位:円)

		研究者名 ○代表者	研 究 題 目	計画年数	配分額	備 考
社 会 学 部	人 間 心 理 学 科	○ 浅岡章一 野添健太 長峯聖人	眠気と創造性 ― Web 調査を用いた検討―	2 年度	993,000	新規
		○ 石橋美香子	保育士の専門性開発～保育士と園児の視線行動の分析～	単年度	680,000	新規
		○ 佐藤俊彦	心拍変動（HRV）バイオフィードバックおよび自律訓練法における安静時の精神生理学的変化	2 年度	366,000	継続 2 年目
		○ 野添健太 山本隆一郎	睡眠が連想に焦点を当てた記憶課題の成績に及ぼす影響についての系統的レビューおよびメタ解析	2 年度	600,000	継続 2 年目
	計（4 件）					2,639,000
社会学部合計（4 件）					2,639,000	
メディアコミュニケーション学部	情 報 文 化 学 科	○ 山口敏和 小原裕二	高大連携で STEM 教育に取り組むための教材開発およびその活動を支援するゲーミング教材の作成	2 年度	1,426,000	新規
		計（1 件）			1,426,000	
	コ ミ ニ ケー ション 学 科	○ 守屋志保 西村律子 浅岡章一 長峯聖人	江戸川大学女子バスケットボールチームのブランディングに向けた人間科学的アプローチ―選手の心理的スキル・睡眠習慣・認知機能に着目して―	単年度	684,000	新規
		計（1 件）			684,000	
メディアコミュニケーション学部合計（2 件）					2,110,000	

研究所・センター

(単位:円)

	研究者名 ○代表者	研 究 題 目	計画年数	配分額	備 考
研 究 所 情 報 教 育	○ 玉田和恵 松尾由美	生成 AI 時代に求められる情報モラル問題解決力の育成 ～ Society5.0 時代を生き抜くために～	2 年度	870,000	継続 2 年目
	合計（1 件）			870,000	
セ ン タ ー 基 礎 ・ 教 養 教 育	○ 福島亜理子 三谷彩華	ICT ツールの活用が読解に及ぼす影響 ―音声を活用した授業改善の検討―	単年度	258,000	新規
	合計（1 件）			258,000	
研究所・センター合計（2 件）				1,128,000	
総合計（8 件）				5,877,000	

2025年度 科研費交付内定一覧

(単位:円)

	開始年度	終了年度	研究種目	部局名	職名	氏名	研究課題名	直接経費	間接経費	経費合計
1	2025	2027	基盤研究 (C)	メディアコミュニケーション学部	特任教授	松田稔樹	新逆向き設計に基づくカリキュラム開発手法の確立と単元指導計画改善支援ツールの開発	2,700,000	810,000	3,510,000

教育改革推進経費採択課題

教員名	予算要求額	決定配分額	改革案タイトル	実施予定時期
大塚紫乃	3,508,160	3,508,160	多目的ホールの模擬保育室としての活用	2025 年 8 月
福島亜理子	1,265,603	1,265,603	初年次教育における教員・学生間のコミュニケーションの活性化	2025 年 4 月



Event 2025年度に予定されているイベント

駒木祭 11月2日(日)、3日(月・祝)

江戸川大学の学園祭は、学生で組織する学園祭実行委員会が中心となり、毎年、学科やゼミの教育研究活動の展示をはじめ、模擬店や様々なイベントを行っています。

研究所主催イベント

流山市子育て支援員研修 7月5日(土)～9月27日(土)
第13回情報教育研究会 8月3日(日)
第13回サイエンスセミナー 8月5日(火)
こどもコミュニケーション研究所フォーラム
11月16日(日) (情報教育研究所と共同開催)

※この他のイベントを含め、詳細が決まり次第、各研究所のWebページでご案内します。

江戸川ガールズアワード 11月3日(月・祝)

社会学部経営社会学科では「演習・実習」「専門ゼミナール」科目での取り組みとして、『EDOGAWA GIRLS AWARD』の企画から運営までを実施しています。16回目となる今回は、新たな試みとして、音楽・ファッション・ゲームビジネスの3コースをジョイントさせた、複合型イベントとして開催する予定です。

音楽分野では、高校生バンドを対象とした「NEXTAGE ARTIST AUDITION」の決勝審査を実施します。

また、有名ブランドとのタイアップ「ファッションコーディネート対決」や、「ゲーム女子によるテッペン対決(仮)」など、さまざまなコンテンツを企画中です。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

学生が制作するラジオ番組「きらめきトキメキ教えてラジオ!」で東京湾アクアラインを取材

電波放送部の学生が自分たちで制作した番組を、千葉県八千代市のコミュニティFM「FMふくろう」にて『きらめきトキメキ教えてラジオ!』として生放送しています。

3月の放送では東日本高速道路株式会社(NEXCO 東日本)、東京湾横断道路株式会社のご協力のもと、神奈川県川崎市と千葉県木更津市を結ぶ東京湾アクアラインを取材。「高速道路の下に全長約10キロの通路!」「私たちの安全を守る防災設備とは?」普段は入れない東京湾アクアラインの裏側についてお伺いしました。

YouTubeチャンネル「ふくろうFM」ではアーカイブ版が配信中です。ぜひお聞きください。



◆番組名:きらめきトキメキ教えてラジオ!

◆放送日時:毎月第4土曜日:10時30分～10時59分 ※放送内容・時間は予告なく変更となる場合があります。

◆放送媒体:FMふくろう(FM85.8MHz)、FMふくろうインターネットサイマル配信

100円朝食リニューアル & 新規キッチンカーの紹介

江戸川大学では学生の食生活を応援するために、大学からの補助で100円朝食を学食にて提供しており、教職員も同じ金額で利用が可能です。4月から100円朝食のメニューがリニューアルし、「スクランブルエッグ、ウインナーセット」、「朝カレーセット」、「納豆・海苔・温泉卵がついた朝定食セット」の3種類となりました。提供時間は午前8時から10時までです。

キッチンカーも続々と出店しています。今年度からは月曜日にスパイシージャック井、水曜日にケバブサンドが仲間入り。その他、カレーやワッフル、クレープなどジャンルは様々です。出店予定は大学公式Webページをご確認ください。



「JAPON KEBAB」ケバブサンドなどを提供



「NUMBER.12」スパイシージャック井などを提供

ご寄付のお願い

江戸川大学が学生の学びを支え続けていくためには、より良い教育環境の整備や文化・スポーツ等の課外活動に対する支援が必要となります。皆様の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



お申し込み、免税措置などの詳細はこちらから

◎編集後記

4月から授業の開始と終了のチャイムが校歌になり、学生から「メロディーは覚ええました」と感想をいただきました。大学の校歌に接する機会は意外と少なく、入学式と卒業式の2回だけということも珍しくありません。これを機に身近なものになることを願っています。

ちなみに、江戸川大学の校歌は、メロディーは大きな江戸川の流れを象徴し、歌詞は万葉集、古今和歌集、新古今和歌集をそれぞれモチーフに作られています。簡単にまとめると「自身の感性を忘れずに、先人の文化から謙虚に学び、伝統を踏まえて未来に繋げなさい」という思いが込められています。

大学公式Webページでは本学名誉教授の下平武治先生、佐藤毅先生がまとめられた校歌の由来を公開しています。ぜひ、校歌の歴史や歌詞に触れてみてください。

江戸川大学学報

2025年6月号 第56号

Vol.24 No.1 2025年6月30日発行

発行 江戸川大学 事務局 総務部広報課

〒270-0198 千葉県流山市駒木 474

TEL.04-7152-9980